（2）暮らしの変化

われわれの先祖は、当初は狩猟採集から始まって、やがて耕作する時代に移行するわけですが、そのころでも火山噴火、地震、津波、山崩れ、浸水や洪水などの環境にあったと思われます。そういう中で経験を頼りにより安全なところを探るように生活域を展開していたように思われます。平野部であれば、微高地を求めて住まいにし、丘陵地も浸食や土砂が流れてくるようなところや変動しているところは避けつつ、恵みと安全を考慮しながら暮らしを続けていたような気がします。

したがって、人が住まないというか住めない荒地や湿地といったものが散在するような風景が広がっていたのだと思います。その後、徐々に食糧事情の好転もあって、人口が増加し新たな土地開発が進みます。排水をはじめとする土木技術も進展して、耕作地が拡大されていきます。そして技術開発が進行し、河川改修や洪水対策も大規模なものになっていきます。これらの事業の目的は人口対策と農産物の増産にあるわけで、例えば江戸時代の各藩にしても国にしても財政力強化ということでの大きな政治の目標となります。

人類が誕生したのは約 20 万年前、農耕開始が約 1 万年前ですが、その農耕社会が何千年間と発展してきますが、約 400 年前には近代化という市場化、産業（工業）化の社会に突入し、今は情報化･金融化時代ということになります。世界の潮流は少々時差があっても各地に拡大し展開されています。それに同調するように、わが国も人口の移動が都市集中というような形になって、効率化、利便性が最優先されるような社会構造に変わりました。そのようなことが結果的に、気候の変動とも反応して災害の対象になりやすく、被害の拡大に関係することにもなっています。